



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano” とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

患者に寄り添うということは、

〔当法人理事〕

朝比奈クリニック

朝比奈 崇介 [医師]

だんだんクリニックで診る患者さんが増えてきて、外来をするのがしんどくなってきている今日この頃です。午前中はなんとかもつのですが、午前診が終わるのが14時過ぎて、お昼を食べて、午後診が15時に始まって2時間くらい経つとだんだん辛くなってきます。まあお客様は神様とはいいいませんが、借金も膨大ですので診察時間を短くして診る患者さんを減らす訳にもいかず、今のところ気力で続けています。なるべく明るく、終わった患者さんには頭を下げて失礼のないようにしているのですが、時々「先生、疲れてますね」とか笑顔で言われるところを見ると、「そんなことはないですよ～」というものの引きつった顔をしているに違いありません。(苦笑)

ところで長らく糖尿病劇場で「患者さんの気持ちを考える」ことを大事にと思って布教活動(苦笑)を続けてきたのは、自分の信念のためであり、また他の医療者の悩みに対する答えの一助のため、そしてもっとも大事なのはその医療者に会う患者さんのためと信じているからです。

患者さんのことをコントロールが難しいと感じるとき、それは何故なのでしょう？ どういう時でしょうか？その原因は医者が患者の気持ちに沿えていないからでは？と思うことがよくあります。

例えばMANO a MANO262号の菅野先生が最後に出された43歳の独身教員、毎日友人達と飲み食べ歩く、楽しい日々。焼き肉大好き。今の幸せな生活を変えたくない。菅野先生はこの方を「何故かチルゼパチドを嫌」と書かれているのですが、私はこの方の考え方はとても良くわかります。今の生活がとても幸せだからです。チルゼパチドをうてば食欲が下がって、今までのように食べられないことを良く理解しているからです。昔、沖縄の漁師さんが「毎日漁が終わって家に帰って夕方から仲間達と集まってお酒三昧で三線弾いて、奥さん連中がそれに合わせて踊って、こんな生活がずっと楽しかった。でも糖尿病になってあれもダメ、これもダメと言われて家でも鳥の餌みたいな食事が出てきて、嫌になって止めちまった」これもよくわかります。こんな生活は本当に幸せだったと思います。私だってしてみたいと思います。だから頭ごなしで教科書的な正論を説くのではなく、その患者さんの気持ち、考え方、価値観に沿って話を聞く、対策を立てる。どこまでなら制限してもらえるのか、どこからはできないのかよく話し合う。こんなことが大事だと思います。今日も「風邪引いたから1週間ほど風邪薬飲んで糖尿病や高血圧の薬を飲まなかった。インスリンはうっていただけ薬飲まなかったらどんどん血糖が上がってきて、高い血糖を観るのも嫌になった。でも何の症状もない。先生、まだ測らなきゃいけないんですか？」という患者さんにどれだけ怒らず、どういう価値観で患者さんは動いていて、どういう価値観でこちらが指導しているのか、懇切教えるしかないのです。糖尿病療養指導はそんな仕事だと思っています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 カーボカウントについて、誤っているのはどれか、2つ選べ。

(答えは3ページにあります)

1. 食品中にどれだけ食物繊維が含まれているかを計算する
2. バランスの良い栄養素の補給を目的としている
3. 食品交換表を活用することができる
4. インスリンポンプの普及により活用が広がっている
5. 基本的に、基礎カーボカウントを習得した後で応用カーボカウントを実践する



報告

第54回東糖協多摩ブロック糖尿病教室

日時:令和6年12月21日(土)
パルテノン多摩

年末の冬晴れの中、多摩市にあるパルテノン多摩において『第54回東糖協多摩ブロック糖尿病教室』が開催されました。当日は現地開催とWeb配信で実施され、56名の方々にご参加・ご視聴いただきました。

冒頭、開会の挨拶で東京都糖尿病協会 副会長 宮川 高一先生より、東京都で行われているブロック糖尿病教室の組織や当ブロック糖尿病教室の意義、患者さん同士の横の繋がりについてお話いただきました。講演Ⅰでは「私の糖尿病治療、体験談」と題して、多摩センタークリニックみらいの三ツ木 美麗先生と患者様U様からお話をいただきました。実際に治療に取り組んだ糖質制限を通じて、自分に合った糖尿病治療を考え実行されたようで、とても興味深いお話でした。糖尿病とは長期に渡る治療になってきます。糖尿病という疾患としっかり向き合い、自分に合った治療を見つけて、明るく前向きに治療を続けることの大切さが伝わった講演でした。講演Ⅱでは「新しい治療薬の選択について」と題して、東京都立多摩南部地域病院 糖尿病内科副部長 本城 聡先生よりお話いただきました。糖尿病の基本的なお話や、最近の糖尿病治療薬や週1回のインスリン製剤のお話など、非常に分かり易い内容でした。会場に参加された患者さんは新しいお薬に期待され、興味深く聴講されておりました。最後のパートでは「ぜひ聞きたい! あんな疑問? こんな疑問? コーナー」においては、患者さんや医療従事者の方々からの糖尿病に関する日頃のお悩みや疑問、質問を集め回答をいただきました。近藤医院の吉田 敦行先生に司会を務めていただき、コメンテーターとして三ツ木先生、本城先生、朝比奈クリニックの渡邊 千秋先生よりご回答をいただきました。閉会の挨拶では、本城先生から糖尿病と仲良く向き合い治療をしていく大切さを聴講者へお話いただきました。15分の休憩をはさみ、約2時間の講演でしたが内容の濃い充実した糖尿病教室でした。次回、さらにより良い教室となるよう企画実施したいと思います。



報告

西東京CDEの会 第23回症例検討会

日時:令和7年2月12日(水)
オンライン

[当法人会員] 武蔵野赤十字病院 志賀 和美 [看護師]

2月12日に西東京CDEの会企画による「第23回症例検討会」がオンラインにて開催されました。今回は「免疫チェックポイント阻害薬と1型糖尿病」というテーマで、杏林大学医学部附属病院の糖尿病看護認定看護師 下田 ゆかり先生より症例を提示いただきました。約30名の方にご参加いただきましたが、実際に免疫チェックポイント阻害薬(以下ICI)により1型糖尿病になられた方を経験された方は内3名で、その他の方は「知らなかったので驚いた」「抗がん剤に関わる仕事なので勉強したくて参加した」と話されていました。

今回はグループワークという形はとらずに、チャットまたは直接発言していただく形で意見交換を行いました。提示いただいた症例に関することでは、薬剤を使用する前の説明や使用後の検査についてはどうしているのか等の意見が出ました。ICI使用において、薬剤部でレジメンチェックの際に、検査項目をチェックし、電子カルテの掲示板で注意喚起を行っているという施設もありました。また、ICIにより1型糖尿病になった方は治療終了後には糖尿病は治るのか、今症例の様に元々2型糖尿病を持っていた患者さんは特になりやすいのか等、疑問も沢山上がり、ミニレクチャーの後で先生にご教授いただきました。

ミニレクチャーは、杏林大学医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科教授 安田 和基先生より今回のテーマについて、がんに対する免疫療法、irAE(免疫関連副作用)について丁寧に講義をしていただきました。irAEは様々な臓器に生じ、内科疾患の症状と似ており、がんの症状とも区別しにくく、そのために1型糖尿病の発見が遅れる可能性があることや事前の予測が難しいことを講義いただきました。また、「がん」という大変な病気の治療中に「1型糖尿病」になった方の“二重の苦しみ”に対する理解と、治療目標をどこに置くのか、医療者として重視しなければならない点についても教えていただきました。安田先生から参加者へ、“各専門外来へ通院しているがん患者さんについて、糖尿病療養指導士として協働する場面はあるか”との投げかけをいただきました。安田先生の知るところでも全国的に少ないそうで、今回は経験された参加者が少ないこともあり意見は出ませんでした。私を含めてがん専門の担当者や多職種による連携の重要性を感じ、これから何かできることを見つけたいと考えた方が多いのではないかと思います。



第59回糖尿病学の進歩

令和7年1月24日(金)～25日(土)
那覇文化芸術劇場はな一と 他

[当法人理事]

武蔵野赤十字訪問看護ステーション
豊島 麻美 [看護師]

令和7年1月24日(金)・25日(土)那覇文化芸術劇場はな一とを始め5会場に於いて「第59回糖尿病学の進歩」が開催されました。沖縄県での本会開催は初めてという事で、コロナ以降の現地開催に勇んで参加してまいりました。

本会の世話人である琉球大学大学院 医学研究所 内分泌代謝・血液・膠原病内科講座の益崎 裕章先生が、本会のテーマを「100年のライフコースを俯瞰する糖尿病診療」と紹介されました。そして、ライフステージに応じた木目細やかな糖尿病診療や予防の在り方、目覚ましい進歩を続けている治療薬やテクノロジーの活用について、多職種の経験と叡智を持ち寄り、熱心に語らい、積極的に意見交換するプラットフォームとなる2日間になるようにと、温かなエールが贈られました。

訪問看護の場面でも時に新しい知識が必要です。特に印象に残った内容をご紹介します。1つ目は、発売を目前とした週1回インスリン製剤や、新しいテクノロジーを搭載したACHLインスリンポンプによるグルコース管理の支援でした。1型糖尿病を持つ医療的ケア児や、がんと糖尿病を併せ持つ方や、インスリン療法を必要とする高齢者、独居者への生活上に「先進医療」があります。その知識が浅学であった自身を内省し、更なる専門的知識を正しく安全に提供することに身が引き締まりました。

また当法人の理事である多摩総合医療センターの辻野 元祥先生が、災害支援のセッションにご登壇されたので応援に駆けつけました。近年の阪神淡路大震災を契機とした様々な大規模災害の教訓から、災害医療支援体制が進歩したことは皆さんもご承知の通りと思います。このセッションでは、災害時糖尿病医療支援チームDiaMATの発足や活動の実際を知りました。能登半島地震の被災支援の実際を拝聴し、支援体制の組織化と協働は、糖尿病と共に生きる方々に向け、自助への啓蒙活動から共助の体制を更に盤石にする事を目指している事から、当法人での災害予防活動でもこの周知が必要と感じました。



田中 永昭先生（枚方弘済病院 糖尿病センター長）ご夫妻

私は学会参加をすると、普段「不義理をしている縁深い方」に必ず会えるジンクスがあります。今回は会場に向かうモノレール降車時に田中 永昭先生ご夫婦にお会いできました。思えば2010年に岡山県で開催されたJDSでの先生のポスター発表を拝聴できたお陰で、当院の「糖尿病予防フェスタ」が生まれ、フェスタ企画に大変参考となり、それからのご縁が切れることなく続いています。思いがけない再開でその晩の夕食も一緒にさせて頂き近況を語り合いました。地域を超えた糖尿病談義に花が咲き、沖縄民謡酒場での締めくくりは演奏に合わせて、歌え踊れの楽しい時間となりました。

「共助」…災害に留まらず、糖尿病と共に生きる方々との関わりを続けた気持ちさを再確認した学会参加となりました。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 2 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

1. × 食品に含まれる糖質の量を把握し計算する
2. × 従来のエネルギーコントロールとバランスの良い栄養素の補給を目的とした食事療法とは異なり、血糖コントロールに視点を置いた食事療法である
3. ○ 「食品交換表(第7版の巻末の参考資料)」や「日本食品標準成分表」、加工食品や調理済み食品に記載の「栄養成分表示」などにより糖質量を把握できる
4. ○
5. ○ カーボカウントには、基礎編(基礎カーボカウント:毎食の糖質量を出来るだけ一定にすることで、血糖値の乱高下を防ぎ、食後血糖値を安定させる方法)と、それに基づく応用編(応用カーボカウント:摂取する糖質の量と食前に測定した血糖の値から、その都度インスリン投与量を決定し、食後血糖を安定させる方法)の2段階がある

研究会等のセミナー・イベント情報

☒ 主催事業
 ☒ 共催・後援事業
 ☐ その他

◆ 西東京CSII普及啓発プロジェクト 第28回研修会

申込必要

テーマ：『780Gポンプレポートの読み方・AIDの評価～小児科・内科トランジションなど』

開催日：2025年6月17日（火）19:20～21:00

会場：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 1,000円 / 一般 1,500円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください（6/17締切）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

オンライン

◆ 第11回西東京糖尿病と感染症フォーラム

申込必要

開催日：2025年6月18日（水）19:30～21:05

会場：Zoomにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（6/15締切）

問合せ：大正製薬㈱（担当：岩崎） TEL：090-5997-7449

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

参加費
無料

オンライン

◆ 2025年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

第21回 西東京教育看護研修会

第9回 西東京臨床検査研修会

第21回 西東京病態栄養研修会

第9回 西東京運動療法研修会

第21回 西東京薬剤研修会

開催日：2025年7月13日（日）9:25～

会場：Zoomにて開催いたします ※運動療法のみハイブリッド開催(会場：立川相互病院)

参加費：早割[申込開始～6/1] 6,000円 / 通常[6/2～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の
「2025年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちら」より
お申し込みください。（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜第1群＞：申請中 他

オンライン

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付けております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00 / 13:00～16:00にお電話くださいようお願いいたします。

お悩み解決

《マイページQ&A》

Q. お問い合わせフォームは、どこにありますか？

A. <パソコンの場合> ホームページのヘッダー部分(一番上)と、フッター部分(一番下)にあります。
<スマートフォンの場合> ページ上部の「メニュー」の中にあります。ご活用ください。

<パソコン>



<スマートフォン>



発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



「目の前の患者が自分の親だったら、そう思っただけに当たりなさい」以前、当院某医師が新入職員へ送った言葉です。ご自身が研修医時代に指導医から送られた言葉が、このひとことだったそう。以来、職員の接遇研修の柱になっています。とはいえ、一筋縄ではいかない患者さんもまあおられます。折しも4月から、東京都でカスハラ防止条例が施行されました。つまるところはやはり相手への思いやりでしょうか…。（広報委員 馬場 美佳子）